主催 東京農業大学

シンポジウム

『農から考える食の安全』

＜参加費無料＞

日　時	会　場
平成23年 **6月10日（金）** 13:00～17:00 ［受付開始　12:30］	**丸ビルホール**（7階） 東京都千代田区丸の内2-4-1 ［東京駅丸の内南口より徒歩1分］ TEL　03-3217-7111

後援　農林水産消費安全技術センター・東京農業大学総合研究所研究会・実践総合農学会
東京農業大学教育後援会・日本食糧新聞社・エコッツェリア協会

定員　300名　〈参加費無料〉

【参加申込方法】

◆ お申し込みはメールでのみといたします。〔メールアドレス：anzen@nodai.ac.jp〕
記入事項：①氏名　②年齢　③お仕事　（参加の可否はメールで返送いたします）

◆ 平成23年6月8日（水）までにお申し込み下さい。

※ 定員になり次第締め切らせていただきます。

開催趣旨

去る3月11日に発生した東日本大震災において被災された多くの方々に心からお見舞いを申し上げます。

国内はもとより世界各国･地域から支援の手が差し延べられ、被災地では復興への一歩が始まっています。私たちはこの震災で衣食住の生活環境と安全に対する脆弱さを思い知らされました。非常時においては第一に生命の安全、そのための食の量、質および安全の確保について多くの支援と努力がなされたことは、震災直後の報道で多くの方が目にしました。

自然環境が及ぼす安全への力は諮り知れませんが、少なくとも農を基礎とした生産から食の生活まで食と農の環境とその安全確保についてはこれまでかなりのシステムアップと普及を図ってきました。しかし、被災地では、日々の食料生産から供給、衛生および食環境の悪化から健康を害する被災者も多く、さらに被災地以外でも細菌やウィルスによる食中毒(病原性大腸菌、キャンピロバクター、ノロウイルスなど)が発生するなど、現場に即した安全確保には不十分さを感じざるを得ない数多くの場面にも私達は遭遇しています。

豊かで安全な食とは何か、その安全を確保するためには何をすべきか、今改めて食と農の総合専門家の存在意義と役割を再考する必要性があるのではないでしょうか。

東京農業大学では、震災支援のため東日本支援プロジェクトを立ち上げ、その一環として、この度、下記の要領にて―シンポジウム「農から考える食の安全」―を開催することにいたしました。

ご一緒に食の安全とはなにかを考えてみませんか。多くの方々のご参加をお待ちしています。

シンポジウム実行委員長
東京農業大学教授　岡田早苗

プログラム

■ **開会の挨拶**　[13:00]　**大澤貫寿**　東京農業大学学長

■ **シンポジウムの趣旨説明(仮)**　[13:10～13:45]

なぜ、農から食の安全を考えるか　**高野克己**　東京農業大学教授･副学長

■ **第1部　講演**

[13:45～14:30]　**食の安全･安心と食農安全教育の役割**
嘉田良平　総合地球環境学研究所教授

[14:30～15:15]　**食品の安全摂取基準を予測するニュートリゲノミクス**
荒井綜一　東京農業大学教授

休　憩　[15:15～15:30]

■ **第2部　パネルディスカッション**　[15:30～17:00]

司　会：**北村行孝**　東京農業大学教授(科学ジャーナリスト、元読売新聞科学部長)

パネリスト：**嘉田良平** 氏　総合地球環境学研究所教授
吉羽雅昭 氏　農林水産消費安全技術センター理事長
山﨑美穂 氏　有限会社アグリ山﨑
蒲生恵美 氏　日本消費生活アドバイザー･コンサルタント協会
食生活特別委員会副委員長
平本真樹 氏　三菱地所都市計画事業室環境ユニットマネージャー
エコッツェリア協会事務局次長

■ **閉会の挨拶**　**田所忠弘**　東京農業大学教授